

第4期(2025年4月1日～2026年3月31日)事業計画

今年度は、実行事業が前年度よりすでに「不安定な居住・就労状態にある主に26～39歳の後期若年層および40～54歳の就職氷河期世代」へのアウトリーチとして有効に機能しているという事実を踏まえつつ、増加し続ける相談件数に対応する団体機能が不足しているという課題認識から、支援と並行して持続可能な活動を実現するために、団体機能の強化とファンドレイジングに取り組んでいく。

また、通信手段を失った方への通信インフラ提供については、積極的に他団体と連携しながら、より多様な困窮者へアクセスしていく。

1) 支援につながりにくい方に向けたアウトリーチ事業

▶市民×ICTの緊急支援網「せかいびばーク」

- ・ニーズの高さははっきり判明したので、現状の緊急スポットと体制を維持する。
- ・維持するための組織基盤と寄付基盤の強化を図る。
- ・財政的懸念が払拭され次第、拡大を図る。

▶動画によるアウトリーチ

- ・いわゆる「生活保護おじさん」アカウントで実施している取り組みを再開・継続する。
- ・実支援の急速な増加により作業ができず停止していたが、広報およびファンドレイジングの観点からも重要と判断する。

2) 生活困窮者のための通信インフラ支援事業

▶電話相談を統合する「ボイチャ相談」

- ・「A:ブラウザから誰でも利用できる無料公衆電話(ボイチャ相談)」と「B:各種電話相談会・相談窓口を統合し、システム提供によって運営側の負担を軽減しながら巻き込む(ボイチャ相談:受架電システム)」の二つの展開を継続する。
- ・利用ケースの拡大を目指す。

▶つながる電話アプリ版

- ・他法人が実施していた住まいを失った方への電話番号提供をアプリ化して提供する。
- ・前年度から開発を進めており、今年度中の公開を目指す。

▶テカラテWi-Fi(市民による公衆Wi-Fi)

- ・相談会での展開を継続する。
- ・本年度こそシステムの刷新を図る。